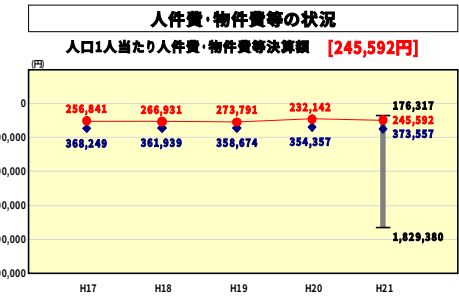
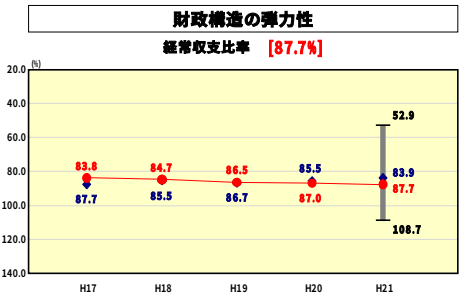
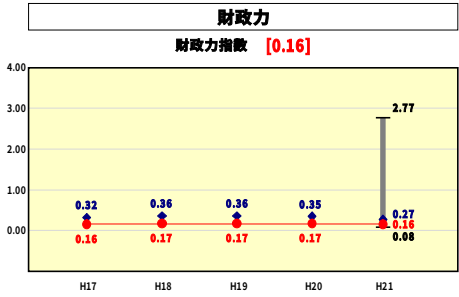


市町村財政比較分析表(平成21年度普通会計決算)



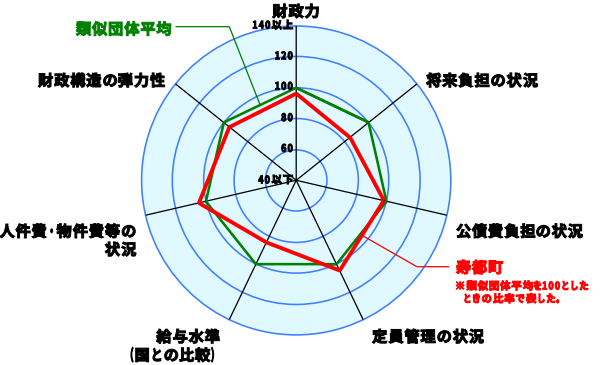
※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし 人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析

財政力指数：人口減少や全国平均を上回る高齢化率（平成21年度末 36.6%）に加え、基幹産業である漁業の衰退により財政基盤が弱く、類似団体平均を下回っている。歳入確保対策としては、北海道と連携しての町税を中心とした滞納整理や町有財産の売却、また、歳出抑制対策では定年退職者不補充や人件費削減、事務事業の見直し、借換債発行等を既に実施している。今後継続して職員数の削減による人件費の削減や緊急に必要な事業を選別し、投資的経費を抑制するなどの歳出の見直しを実施するとともに、税収の微収率向上対策を中心に歳入確保に努め、行財政の効率化を目指し、活力あるまちづくりを展開しつつ財政基盤強化を図る。

経常収支比率：平成15年度から実施している高利率の地方債の借換等により公債費の削減を図っているが、類似団体平均を上回っている。福祉関係経費の増や町税の減等により比率は年々悪化すると予想される。今後とも事務事業の見直しを更に進めるとともに、全ての事務事業の優先度を再度点検し、優先度の低い事業について計画的に廃止・縮小をすすめ、経常的経費の縮減に努める。

人口	3,495	人(H22.3.31現在)
面積	95.37	km ²
標準人口	1,871,875	千人
歳入総額	5,137,117	千円
歳出総額	5,017,782	千円
実質収支	30,875	千円

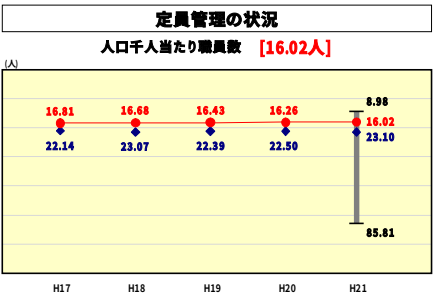
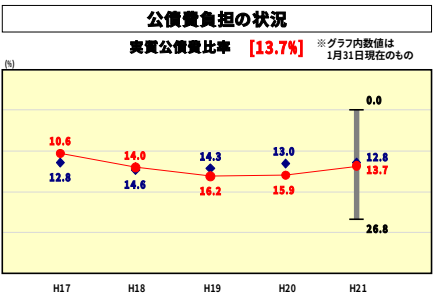
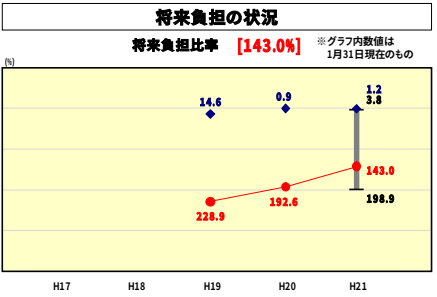
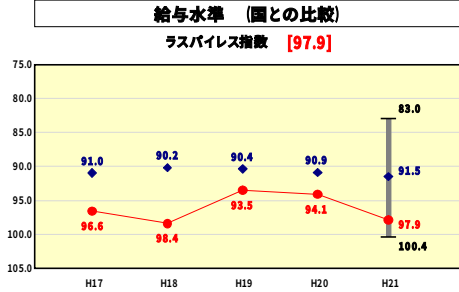


※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を行う。

※平成21年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破綻としている。

※充当可能財源等が将来負担を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記せず、レーダーチャートを破綻としている。

※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。



人口1000人当たり職員数：新規採用抑制等により類似団体平均を下回っている。今後は、定員適正化計画に基づく定年退職者不補充や民間委託の推進により、更に職員数を削減する。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額：類似団体平均と比較して決算額が低くなっている。要因としては「定員適正化計画」に基づく定年退職者不補充、また「財政立て直し計画」に基づく人件費削減及び事務事業の見直し等により人件費及び物件費が類似団体より低いためであり、今後についてもこれらの計画に基づいて経費を抑制する必要がある。

ラスパイレズ指数：平成15年度～平成18年度には期末勤続手当の独自削減を行ってきたが、ラスパイレズ指数には反映されなため類似団体平均を大きく上回っている。全国的にも高い水準にあるため、平成20・21年度に基本給の独自削減を実施し、平均的な水準になるよう努める。また、今後も地域民間企業の平均給与状況と踏まえ、給与の適正化を図る。

実質公債費比率：実質公債費比率は13.7%と類似団体平均を上回っている。平成22年度以降は増加していく見込みである。今後は中期財政見通しを基に、事業計画の整理や縮小を図り、緊急度・住民ニーズを的確に把握した事業を選択し、起債に頼ることのない財政運営に努める。

将来負担比率：昨年と比較すると、職員数の減や充当可能基金の増額などにより比率は下がっているが、類似団体や全国の平均を大きく上回っている。今後とも大規模事業の実施などにより、比率の上昇が予想される。公債費等義務的経費の削減を中心とする行財政改革を進めるとともに、新規事業の実施等について総点検を図り、後世への負担を少しでも軽減するよう財政の健全化に努める。